

mmc NEWS

MEIDAI MASS-COMMUNICATION CLUB

発行 明治大学マスコミクラブ
 〒101-8301
 東京都千代田区神田駿河台1-1
 明治大学広報課内 MMC事務局
 電話 03-3296-4082
 FAX 03-3296-4087
 e-mail: mmc@meiji-mmc.sakura.ne.jp
 発行人 木村 武
 編集人 斎藤 柳光・梶野 雅秀

2008年新たな歩、全国へのMMCに

明治大学マスコミクラブは大きな節目を迎えようとしています。昨年はマス研の協力を得て初の就活研究会にもチャレンジし成果も大。明治大学出身のマスコミ人間が大同団結して母校へ貢献するという設立趣意を全うしました。今後はこの理想の輪を広く全国に広げ、母校が目指す全国校友の一体化と歩調を合わせ、より充実したMMCを目指します。

「是非とも明治大学マスコミクラブ中国支部の結成を！」昨年11月4日、広島市の中国放送会議室で、MMC阿部剛巳、中谷範行の両副会長、齋藤柳光理事長、和田哲郎常任理事、宮脇渉同・全国担当が、三宅昌臣（中国新聞顧問）、川島宏治（中国放送取締役報道制作局長）、本名正憲（同アナウンサー）、井上浩（中国新聞人事部長）らの広島在住のメンバーと

「MMC中国支部」設立の準備会議を開きました。折から全国校友大会広島大会が行われたことを契機に、かねてから積極的に活動の輪に参加してくれている中国・広島地区の会員による将来の支部結成をテーマに、約1時間の活発な意見交換を行いました。

昨年の総会でもより交流の輪を広げ、より全国視野に立った活動を実現しようということと各地区の代表メンバーに全国担当常任理事をお願いしました。



中国放送会議室で行われた「MMC中国支部」設立準備会議。

すでに、新潟地区では駒形正明さん（新潟放送）を中心に支部活動を展開していただいておりますが、このほか支部の形はとらないまでも北海道（札幌）、仙台、福岡、名古屋、福岡などで会員相互の交流を深めていただいております。

広島会議でも、近くて遠い関係になりがちな地域会員同士のコミュニケーションを図り、就活支援もより地域に密着した形で催すなどといった母校への貢献に関して熱心な提案がなされ

今年、20年の歴史ある2つのマスコミ組織が合併し9年目を迎える、富士登山なら胸つき八丁の急登、今後MMCの行方を占う年となる。面白く、楽しくをモットーに活動してきたが、昨年の活動を振り返り、本当に実現できたか、自信がない。

昨年は、恒例のマスコミ就職セミナー、月例会、懇親会に加え、マスコミ就活研究会が延べ40数回実施され理事、幹事、講師、関係の皆様には、大変な負担をかけた。本当にご苦労様でした。



面白く、楽しく、MMCの輪と明治の輪を広げよう

MMC会長 木村武

●マスコミ就活研究会

「マスコミ業界に多くの後輩を」のOBの熱き思いから始まった就職セミナーから発展したマスコミ就活研究会は、デジタル時代の申し子にアナログ思考を教え込む、というのが私の印象だった。

アナウサー、新聞、出版クラス、TV、広告クラスの3クラスでスタート。作文、エントリーシート、模擬面接を夏休みをはさんで40数回の講義を展開してきた。

7月講義が始まり、学生達のマスコミ就職への目的意識が希薄なこと、作文、話し方、常識が幼稚なこと、シヨクをうけた。しかし9月、10月、11月の講義を経て、作文、話し方も上達し、11月の山中湖合宿、12月の最終講義の学生の表情、文章、エントリーシート、目的意識は、見違えるぐらいメリハリがあり前向きになっていた。

●MMCの輪、群れる楽しさを

昨年は、後輩の指導にエネルギーを取られ本来の目的である会員の交流が希薄になった。

そのなかでも広島支部結成は、久しぶりの朗報だった。今年、北海道支部結成を目指し、また懸念の女性会員の常任理事会への参加、を実現、組織の活性化と楽しい輪を広げよう。

デジタル時代、生のコミュニケーションを図るために群れる楽しさが実感できるような企画、面白く、楽しくをモットーに活動しますので皆様の絶大なご協力宜しくお願いいたします。



MMCの輪は一つ。「おーおー明治」を高らかに(ピヤパーティから)

【2008年新年総会】
 日時：1月31日（木曜日）
 総会：18時～18時40分
 懇親会：18時45分～20時
 会場：明治大学リバーテールタワー23階「紫紺・燦」
 参加費：1万円
 （2008年会費4千円含む）
 ☆北京オリンピック壮行の意味を込め、総監督に就任した上村春樹氏にもお越し頂きます。

初の就活研究会 後輩の熱気が充満 中間報告



「7月にスタートしたMMCマスコミ就活研究会も、12回の日程をひとまず終了した。事務局の立ち上げ、講師の確保、講義計画、連絡システムの整備など、なにか全てを自分たちで行う初めての体験。毎回手探り、手作りの苦労はあったもの、ともかくなんとかこなしたことに今は胸を撫でおろしている。

これも、MMC木村会長、阿部副会長、斉藤理事長を中心としたメンバーの方々の全面的なバックアップがあったからこそ、と心から

「二人でも多くの後輩をマスコミに！」を合い言葉に初の明治大学マスコミクラブ就活研究会が7月9日に開講式を行い半年間にわたり実施されました。応募者217人から選ばれた155人が「新聞出版」と「放送エンターテインメント」広告の般2教室と、アナウンサー教室の3教室に分かれ各12回以上の講義と、11月の合宿などで多くの先輩講師の熱心な指導をうけました。



全7部門に1220人 講師50人と101人会員が総力結集

2007年度マスコミ就職セミナーは計7ジャンルに1220人の学生が参加、11年目を迎える今回は初の就活研究会を踏まえて、例年より早く5月10日の全体セミナーを皮切りに、同15日アナウンサー、同22日放送、6月7日出版、同12日新聞、同21日広告、そして同26日の制作エンターテインメントとほぼ毎週実施されました。講師陣も総数50人、運営スタッフも加えれば延べ101人が協力、

まさにクラブの総力を結集した陣容となりました。参加者数は全体セミナーと並んで広告が300人。続いて制作エンターテインメントが250人、出版が230人、放送160人、アナウンサーと新聞が100人となりました。

なお、今回から大学より講師への謝礼などの配慮がありました。多くの大学がマスコミ就職セミナーを主宰していますが、わが明治には未だありません。それだけに10年の実績を誇るMMCセミナーへの期待感が高まってきているということでしょう。(MMC常任理事 柳沢克行 78年・政経)

感謝している。11月には山中セミナーハウスで合宿も行い、会長、副会長も泊まり込みで模擬面接の面接官を担当していただくなど、総力戦で学生たちと向き合った。その甲斐かと思う。学生たちは確実に成長したと思う。当初、抽象的であいまいだった自己紹介、志望動機が見違えるほど具体的に細部に富んだものになった。有望な学生が育ってきたことがはつきりと分かる。ただ、講義を進めていく中で、「なぜマスコミなのか」という動機が今ひとつ弱いということだった。限られた講義回数にもかかわらず、面接、エントリーシートの対策に特化せざるを得ないのだが、その前提となる「熱」はどうか、「動機」はどうか。根本的なところをどう意識させるかが「次」への課題として見えた気がする。

当初の講義計画は終了したものの、就活はこれから本番。今後、企業別のより細かい指導が必要となる。OB、OG訪問など、皆まの協力をお願いしたい。(就活研講師 高瀬毅 78年・政経)

「広告・放送・エンターテインメント」

「デジタル時代の申し子にアナログ思考を教え込ませたい。本年7月に開始したMMCマスコミ就活研究会の活動は一言に収めるとそのような印象であった。水曜日は、広告放送、エンターテインメントの企業を目指す学生77名の初回参加者からスタートし、作文、エントリーシート記入、面接と、夏休みをはさんで10回の講義を展開した。

前半、彼らがもともと苦手としたのは、「自己を他者認知という客観性を担保しつつ、熱意をもって語れるか」ということであった。作文の練習期間では、この感覚を習得させるのに手間取った。エントリーシートの記入、模擬面接では、何をやりたいのか、その真意を計りかねる発言、記述が頻発した。ドラマを作りたい、報道に携わりたい、世間をあととわせる広告を作りたいなど、その単純な動機(しかしそれはマスコミの「これを世に問いたい!」を突き動かす原動力となる本動性)が現在の学生には弱いという印象が残った。後半になってもマスコミ業界で働く面白さを何度も話して聞かせなければならなかったところに、どこか本末転倒な感覚をもった。

講義を終了した時点で、学生たちに残ったのは、「自分探しの良い機会となった」というレベルに止まるのではなからうか。反省とともに残念に思う。

「アナウンサー」

今年は「北京オリンピック」の年です。世界最大13億人の人口を誇る中国の首都北京で開催されるオリンピックです。8月8日午後8時、北京オリンピックスタジアムの開会式。史上最大の規模で整然とかが熱気あふれるその開会式の模様を伝えるのはアナウンサーです。アナウンサーはいつも時代の転換期、歴史の節目にいます。感動を、喜びを、悲痛を、哀愁を、怒りを、正義をそして事実を伝えます。

「情報というコンテンツを分かり易く言葉というツール」を表現豊かに駆使して、人が人として誰もが心豊かに幸せになれるよう「お手伝いする黒子」がアナウンサーではないかと考えます。

日本でラジオがスタートしたのは1925年。テレビのスタートは1953年。以来、時代と共に放送の最前線にアナウンサーはいます。放送史上、明治大学は名アナウンサーを数多く輩出してきました。しかし最近では「狭き門」といわれるアナウンサー試験を受ける現役明治大学生が少なくなった事を受け、昨年、MMCアナウンスセミナーがスタートしました。

言葉はしっかりと捕まえて、きちっと相手に届けないと逃げて行くものです。



アナウンスセミナーで挨拶する清水部長

「就活研究会」の集大成といえる合宿が、11月10日、11日、山梨県の明大山中湖セミナーハウスで行われアナウンサー志望を除く学生が参加しました。

到着するなり、いきなり全員が自己PRの1分間スピーチ、そして模擬面接、講師から発言のあいまいさや甘さを鋭く突かれうなだれる学生も出るなど終始ビリビリムードでした。夜は講師達と酒を酌み交わしながら業界研究のアドバイス、仲間との情報交換、翌日は2度目の模擬面接と中身の濃い、カリキュラムでした。「就活」の厳しさを実感し、学生達の表情が一段と引き締まった1泊2日でした。

(MMC副会長 阿部剛己 67年・商)



MMC「就活研究会合宿」

言葉の持つ意味をどう理解し、時代の中でどう受け止め、どう表現し、限られた時間でどう相手に伝えるか。まず、感性というアンテナを張り、時代感覚・社会状況を見据え、大地に足を踏ん張ってMMCアナウンスセミナーで学んだ事を活かして挑戦して下さい。そしてその先に今まで知らなかった新しい自分を発見してくれたらこんなうれしい事はありません。

(MMCアナウンスセミナー事務局)

「おまえ今頃来たんか！」

あれは忘れもしない昭和54年9月に起きた今はもう時効の話から。

当時、僕らの就職活動は10月解禁でした。一般企業のOB訪問もそろそろはじまり、とりあえず夢のマスコミで受けようと思ったのは、迷わず日本テレビでした。東京オリンピックの頃、小学2年生から3年にかけて奥田が大好きだった外国テレビ映画『デイズニード』(青春ドラマ『青春とはなんだ』(夏木陽介、藤山陽子主演・石原慎太郎原作『風と樹と空』)鰐淵晴子主演、明大OB安田暉先輩プロデュース作品)これらすべてを日本テレビが放送していたからです。よって、日本テレビを唯一の目標に絞り、申し込みをしに就職課に行くことになったのです。

当時、指定校制度というものが、あり慶早大はそれぞれ50名、われらが母校はという15名分の申し込み用紙しかなく、学内でも超狭き門でした。午前中が学内での申し込み締め切りでした。しかし、うかつにも寝坊してしまい目が覚めた時にはもうすでにお昼。どうせ受からないからと諦めようとも思ったのですが、その時、脳裏に浮かんだのがマス研のなかで柴田薫を始めとする自主勉強会のメンバーの顔でした。「ここでやめたらみんなに、バカにされ後ろ指を差される!諦めるわけにはいかない!とりあえず願書だけはもらいに行こう(笑)」

夕方、あきらめ半分で就職課に現れた私をみて西就職課長が「おまえ今頃、来たんか!」奥田(スマセン寝坊しました)西課長「なんだお前、そんなに日本テレビ受けたんか?」

奥田「ハイ、どうしてもお願いします!」

西課長「200人もきて、やると15人に絞ったんだぞ。」と怒りながら既に選んだ学生の15名分の束を見せてくれたのです。

西課長「でもまあここ数年、誰も受かっていないからな...」奥田「...」とても長い沈黙が続きました。

そして、西課長から思いもよらぬ一言が、「じゃあ、おまえこの中から一枚抜いておまえのを入れとけ!」

この西課長の奇跡の一言がなければ私は日本テレビに縁がありません。

寄稿 西就職課長の奇跡の一言から30年

「風の谷のナウシカ」から「ALWAYS 続三丁目の夕日」まで

世界をアッと驚かせるプロデューサーに

せんでした。本当にありがとうございまして!(同じく就職課の鈴木さんにも死ぬほどお世話になりました)

というわけで日本テレビ入社後は編成配属のち映画部へ異動、金曜ロードショープロデューサーを経て映画製作の道を歩み始めたのです。

映画部での最初の仕事が『風の谷のナウシカ』のTV初オンエア。番組での原作本のプレゼントに町郵便局始末まで以来の200万近い応募に初めて宮崎アニメの凄さを思い知らされました。以来、ジブリの成長とともに20有余

年がすぎました。「紅の豚」では映画のオープニングで緑の豚が各国語でタイプライターを打つシーンがあったのですが、各国語への訳は、私が担当し結局このマークのちの日本テレビのシンボルマークの「なんだろう」にもなりました。

『平成狸合戦ぽんぽこ』では、アニメーターの作画用にしたぬきのモデルとして私の写真が参考にされていたり(涅槃の大仏のシーンとか)となりの山田くん(併映作『ギブリーズepisode』の中にキャラクター・奥ちゃんとして登場したり、話題を呼びました?)。また、今から13年前、宮崎監

カデミー賞をはじめ、ベルリン映画祭、ベネチア映画祭、そしてハリウッドでのアカデミー賞アニメーション部門賞も受賞。ついにはこれが、このレッドカーペットを踏みしめることができ、幼い頃からの夢が実現しました。

しかし、この喜びの絶頂も東の間に、地獄が待っていました。日本テレビ氏家齊一郎会長(現議長)が「おまえはジブリだけじゃダメだ!実写もちゃんとやれ」という厳しい言。そして、それからが本当の苦勞の始まりでした(笑)。それまで実写映画も並行して製作してき

ならざるをえませんでした。東京タワーは、江國香織原作の大人の恋を描いたおしゃやかな作品でしたが17億円の興行収入をあげ大成功となりました。

そして、そんな最中、浮上したのが『ALWAYS 三丁目の夕日』(2005年公開)の製作でした。当初、この企画は社内での役員を交えた映画の開催会議で二度却下された企画でした。理由は、良い映画が出来るのはわかるが映画興行はダメだろう、と。うことでした。つまり、当時、この映画がターゲットである団塊の世代は映画館には来なかったのです。



奥田誠治 氏

せた作品は数少なかったのです。「あぶない刑事シリーズ」家なき子「金田」少年の事件簿「上海魚人伝説」などはありました。が、実写で先行していたCXの前にはアニメ映画以外では見るべきものがありませんでした。

試行錯誤を繰り返して、失敗する作品も出てくる中、ついに日本テレビが製作し大成功したのが『東京タワー』(2005年公開)の主演、黒木瞳・岡田准一でした。他局ではドラマとその映画化が基本パターンでしたが日本テレビはなかなかそれが上手く出来ず、「映画企画」主導の映画づくりが中心と

この作品は、2002年の日本ア

しかし、勝機はあると確信は持っていました。もちろんはずれたら大変です。ですから成功に向けてありとあらゆる手をうちました。でも、それもこれもこの映画こそ自分たちが本当に見る価値がある作品だと思ったからです。そして、公開後、映画は社会現象になり日本アカデミー賞のほとんどの部門で受賞できました。

そんな三丁目と並行して製作していたのが『DEATH NOTE』(2006年公開)でした。映画と前編と後編で連続公開するという形式は業界としては、こしばらく例をみない方式でした。

また、洋画配給会社ワーナーブラザーズと手を組みトータル80億円という興行収入をおさめることに成功したのです。その後、「かめ食堂」花田少年史「東京タワー」オカンと僕と、時々、オトン「舞妓Hana」三「めがね」『ALWAYS 続三丁目の夕日』マリと子犬の物語』を製作してまいりました。

来年は「陰日向に咲く」(劇団ひとり原作、岡田准一主演)『LCHANGE THE WORLD』(DEATH NOTE スピンオフ映画)『死神の精度』(金城武主演)『隠し砦の三悪人』(崖の上のポニョ)『宮崎監督最新作』(スカイ・クロラ)『押井守監督』(20世紀少年)『第2章』(K・20)『怪人20面相』などを準備しております。こうして良く考えたと就職課西課長の人情と同期や後輩たちの力でマスコミのスタートを切ったわけですし、これまで作ったどの映画も人プロデューサーや監督をはじめ製作スタッフとのつながりなくしては絶対に成立しなかったです。一人じゃなにも出来ないです。本当にいろいろな方々に感謝しています。今後ともよろしくお願ひ申し上げますね。みなさん。そして、今後の夢は、世界中の人々をアッと云わせ、感動させる作品を作れたらと思っています。ライバルは、ジェリー・ブラッケンハイマー・プロデューサーでしょうか(笑)。どうせ夢をもつなら大きく、大きく...。それではさきげんよう。日本テレビ放送網(株)編成局映画センター長 (社)日本映画プロデューサー協会 常任理事 奥田 誠治 (80年・政経)

第十六回MMCゴルフコンペ報告

武内裕杯は宮本氏の手に

女心と秋の空とはよく言ったもので、天気予報では十一月一日は完全な雨モードであった。ところが当日は快晴無風の絶好のゴルフ日和となった。今回の会場となった東松山カントリークラブは過去にフジサンケイクラシック、マルマンオープントーナメントなどのプロ競技が行われた名門コースである。たまたま明治大学マスコミクラブの佐々木共成さんが同コースの理事をされていることで今回の開催となった。おかげで佐々木さんにいろいろ便宜を図ってもらい安くプレーできることになった。

競技は恒例のオネストジョン方式で行われ、宮本恭一が見事

初優勝を飾り、京都清水焼の陶工、武内裕さん制作の優勝杯を獲得した。このカップはこのコンペのために特別に武内さんが制作したもので絵柄に秋らしく紅葉と明治大学のシンボルマークをあしらった力作である。竹内さんの好意で毎回寄贈いただけることになった。そのほか今回は特別に輪挿し、夫婦茶碗など賞品として多数提供していただいた。

宮本さんは春の大会優勝の堀威夫さんから優勝カップを授与され、喜色満面であった。

今回のトピックス

本来は秋の大会は猪野さんの監事の予定であったが、胃の手術後大事をとって欠場とのこと、現

在は仕事にも完全復帰され、次回出場は全く問題ないとのこと。その分幹事代理として堀口さんには大変ご足労かけてしまった。今回は佐々木さん、坂部さんの二名が初参加で夫々ベスコロ、四位ニアピン獲得など大活躍であった。

第16回MMCゴルフコンペ成績表 (オネストジョン方式)

順位	氏名	グロス	申告スコア	調整スコア	正直度
優勝	宮本 恭一	99	89	91	2
2位	阿部 剛巳	100	92	96	4
3位	榆 郁太郎	94	82	87	5
4位	木村 武	107	95	100	5
5位	坂部 達夫	107	93	98	5
6位	堀 威夫	104	88	95	7
7位	中根 薫	102	85	92	7
8位	久保田 晃平	116	96	104	8
9位	堀口 博史	104	87	95	8
10位	野村 義臣	100	87	96	9
11位	大林 龍彦	130	105	115	10
12位	梶野 雅秀	141	110	125	15
13位	千田 正穂	116	108	106	-2
14位	佐々木 共成	81	82	78	-4
BB	斉藤 柳光	101	98	94	-4
BM	大西 敏勝	93	90	85	-5

参加者大募集中

今回は四月上旬に相模カンツリー倶楽部に於いて観桜コンペを開催予定。当コンペも高齢化が進んでいる為、若手や女性の参加を歓迎します。ぜひ参加ください。お申込み、問い合わせは榎本。(申込連絡先 090-3247-1121) MMC副会長 榎郁太郎(64年商)

月例会 北川エイエスピー社長の「Web広告」講演を内外40人余が熱心に受講

MMC恒例の月例会が11月20日株式会社エイエスピーの北川尚毅代表取締役社長(99年経営卒)を迎えて、リバーテーターワーの1115教室で行われました。

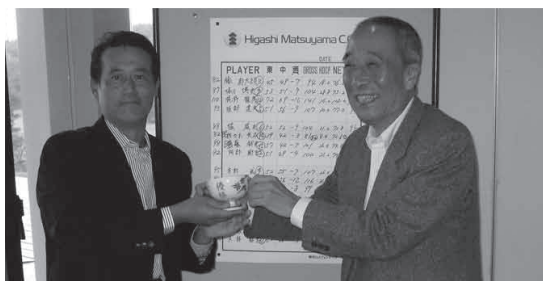


テーマは「これからのWebコミュニケーション」。エイエスピー社は大手広告代理店アサツーディ・ケイとインターネット広告のセブティエの両社が1年前に、まさに時代の要請に応えて設立しました。そんなマスコミ業界が目指す最前線業務について、北川講師が理論と現実を解説してくれました。

「広告会社の役割は大きく変わる。今までは前工程が大切だったが、これからは後工程が重要になる」。広告課金システムは大きく変化。データ集約が出来て、双方向性の強みを持つウェブ広告の世界だけに、これまでの業界の常識を大きく変えそうです。

ネット広告は米国では1:6兆円、日本ではまだ07年で4530億円。しかし、05年は3630億円だっただけに急伸。すでに雑誌広告をも追い抜いて、11年には7500億円が見込まれています。

ネットの勢いは誰しも体感しているところですが、北川さんのレクチャーをうけるほどに、ますます脅威的な存在となっていくまじつた。聴講者は約40人。大学HPで呼びかけたところ大学院生や学生も多く参加。質疑応答もいっしょに活発で、就活相談で北川社長に直訴する学生もいて、まさにタイムリーな会となりました。



初優勝の宮本恭一さん

武内裕氏のコメント

伝統ある明治大学マスコミクラブのゴルフコンペに私の名前を冠に付けていただき大変感激いたしました。毎回ご案内をいただきますが、仕事の都合上いつも参加出来ず申し訳なく思っております。取りきりの優勝カップを制作いたしました。ご自分の手に渡るか大変楽しみです。 陶芸家 武内裕(86年法)

〈お悔やみ申し上げます〉

中山司朗(なかもやま・しろう)さんが1月14日、心筋梗塞のため逝去されました。享年73歳。

中山さんは朝日新聞社東京本社運動部長などを歴任して、わが明治大学出身のスポーツジャーナリストとして輝かしい

母校明治の近況

●昨年9月に大幅な機構改革を行いました。部長職を3分の1に減らして、組織も大幅に統合スリム化。水河時代に備えて、目指すは活性化した風通しのいい明治大学へ。

●全国校友大会が昨年11月4日広島市で行われ、1500人を超える校友が集いました。わがMMCメンバーの中国放送川島本名両氏が司会役を買って出て、式典、そして三遊亭小遊三師匠(69年・経営卒)のお笑い講演もあり、大いに盛り上がりました。2008年は秋田大会で9月14日に開かれます。

●野球、ラグビー、そして箱根駅伝も予選落ちと今イチの感が強い母校体育会ですが、サッカー部が43年ぶりに関東大学リーグを制覇しました。天皇盃の東京代表にもなり、まさに孤軍奮闘。ちなみに監督は就職部でセミナー活動の際に大変お世話になったご存じの神川明彦さん。うれしいですね!

●法務省発表の司法試験合格者で、明治は9月の新司法試験で80人、11月の旧司法試験で8人。合計88人で全国6位となりました。1位は東大で223人、2位慶應で189人、3位中央173人。

業績を上げられ、当会メンバーとしても多大なご貢献をいただきました。

朝日新聞社では高校野球事務局長を務め、日本高野連理事、そしてプロ野球コミッショナー事務局でアマチュア野球を担当するなど「野球界に明治の中山あり」と勇名をせましました。ご冥福をお祈り申し上げます。

【編集後記】

●「明治大学出身というだけでどんどん輪が広がる」季刊明治のインタビューで会った深堀圭二郎(89年文学部卒)がうれしそうに話していた。ゴルフ界に限らず、「テレビや広告、旅先でも家のことでも」。そんな予想以上の明治大学ネットワークが、選手会長という重責の大きな支えにもなっているという。有名人という特典を差し引いてもいい話だ。

●私見だが、わが母校は地域とか職域、さらには部だゼミだとかいった小枠に入りたがる。どうにも大学という大枠は仮住まいのようだ。「実態があるから」などとおっしゃる。確かにそうだろう。でも何かもつたないという傾向が強いのも、もしかしたら、このあたりの影響かもしれない。「明治大学」と胸を張れば127年の伝統と45万人の校友に輪が無限に広がる。

●MMCも単なるマスコミ職域団体でなく、マスコミに多少なりとも関わり合いを持つ方々にも気軽に参加していただいている。「オーオー明治!」と気軽に肩を組む大枠主義がいい。けっして業種や出身学部、クラブなど小枠で群れず、でっかい輪を目指してほしい。(斎藤 柳光)